

第4学年国語科学習指導案

千葉市立大椎小学校

指導者 三浦 知世

1 単元名 思いを想像して読む

2 単元の目標

- 中心人物の心情の変化に興味を持ち、意欲的に心情をノートに書いたり、友だちと交流しよう
としたりする。 (国語への関心・意欲・態度)
- 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述
を基に想像して読むことができる。 (読む能力)
- 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこ
とができる。 (読む能力)
- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。
(言語についての知識・理解・技能)

3 評価規準

国語への関心・意欲・態度	・物語を読んで、好きなところや、心がひかれるところに着目しながら感想を述べようとしている。
読む能力	・場面や人物の様子がわかる言葉を手がかりにして、「ぼく」の気持ちを想像している。(ウ) ・文章を読んで、考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。(オ)
言語についての知識・理解・技能	・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて文や文章を読んでいる。(イ (ア))

4 単元について

(1) 単元を貫く言語活動と扱う教材

本単元では、「やい、とかげ」を読み、「話し合い活動を通して、中心人物の心情の変化を読み取ること」を言語活動とする。「自転車をなくす前のぼく」と「自転車をなくしたぼく」「自転車がみつかったときのぼく」の心情の変化を讀みの柱として話し合う。そのためには、情景などの叙述をもとに、自分の経験とも照らし合わせながら想像を広げて読み、自分の考えを持つことが必要となる。児童は、まだ、話し合い活動には、慣れていないので、話し合いを活発に行うために人数は、3、4人とし、話し合い手引きシートを手元に置いて進められるようにする。また、話し合いの観点を明確にし、児童一人一人が目的を持って話し合いに参加できるように支援していく。

本教材は、3年生上巻の「消しゴムころりん」を受けての生活童話である。「ぼく」という一人称の語り口から、中心人物の心の動きをより深くとらえることのできる作品である。中心人物の「ぼく」は、読み手である児童の等身大であり、身近なできごとや感じ方に共感を持って読み進めていくことができる。「ぼく」は、あるのが当たり前とっていたものを失って初めて、それがどんなに大切なものであつ

たかを思い知る。ものをなくした心のいらだちや痛みを経験することで、なくしたものと自分との大切なかわりに気が付いていくのである。自転車をもどって、成長した「ぼく」の気持ちの変化を読みの柱として、じっくりと読み取らせていきたい。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

本単元は、話し合い活動を通して、中心人物の心情の変化を叙述から読み取することを目的とする。話し合い活動を活発に行うためにまずは、自分の考えを持つことが必要となる。一人読みの時間を十分に確保し、叙述に線を引きながらそこにあらわれる心情をノートにまとめる。その後、少人数グループでの話し合い活動を行う。その際、共通点や相違点を考えさせながら話し合いを行う。そうすることで自分の考えに自信を持ったり、また友だちの意見を聞いて新しい発見ができたりするだろうと考えた。また、少人数グループの話し合いは、その後の学級全体での話し合いへの意欲化にもつながるだろうと考える。学級全体の話し合いでは、「中心人物の心情が、いつ、どのように、なぜ変わったか。」という観点のもと、根拠をはっきりさせながら話し合いをすることで、個々の読みをさらに深めていきたい。

このような取り組みにより、本単元でつけていきたい「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」(C読むことウ)「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」(C読むことエ)を実現できるようにしている。

(3) (1)(2)の基盤となる言語環境や継続的な取組

話し合い活動では、根拠をもとに自分の意見を積極的に友達に話したり、聴いたりすることが大切である。そこで、朝の会では、様々な題目で理由を明らかにさせながらスピーチを行い、「話し方、聞き方」の指導を継続して行っている。また、国語に限らず他教科においてもグループでの話し合いの機会をなるべく多く設け、友だちに意見を言ったり、聞いたりすることに慣れさせるようにする。

5 指導計画 (7時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点 ◇評価
一	1	○初発の感想を交流し合い、あらすじをつかむ。 ○初発の感想から読みの柱を立て、学習の手順をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」が語り手になって、日記のように書きつづけていることをおさえる。 ・回想場面があり、時間の経過が入れ替わっていることをおさえる。 ・「自転車をなくす前のぼく」と「自転車をなくしたぼく」「自転車がみつかったときのぼく」の気持ちの変化を読み取れることを読みの柱とすることをおさえる。 ◇物語を読んで、好きなところや、心がひかれるところに着目しながら感想を述べようとしている。 (発表・ノート)

二	2	<p>○やい、とかげの全文を読み、中心人物の心情がわかる文に線を引 き、自分の考えをワークシートに 書き込む。(個人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初発の感想で、情景から心情を読み取った児童に発表 させ、情景にも目を向けて心情を考えるよう促す。 ・(一)、(二) 場面の叙述と自分の考えを書き込めるワ ークシートを用意する。ヒント付きのものも用意し、 児童が自分の能力に合わせて選べるようにする。 ・嬉しい、楽しいなどのプラスの気持ちには、赤で、悲 しい、辛い、悔しいなどのマイナスの気持ちには、青 で線を引くようにする。
三	1	<p>○(一) 場面の中心人物の心情につ いてグループ・学級全体で話し 合う。</p> <p>○(二) 場面の中心人物の心情につ いてグループ・学級全体で話し 合う。</p> <p>○(三) 場面の中心人物の心情につ いてグループ・学級全体で話し 合う。(本時)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループは、児童の実態や前時のワークシートを参考 に3、4人のグループを編成し、話し合いが有効なも のとなるように配慮する。 ・「できるだけ、たくさんの考えを出し合い、新しい考 えに出会う。」ことを話し合いの観点とし、話し合い のよさを感じさせる ・「その日～自転車を失くす前のぼくになった」(P23,L6 ～L8)と叙述にはあるが、自転車やとかげ、のぶちゃん に対する気持ちに変化があったことを確認し、それは、 いつ、なぜ、どのように変わったのかを考えさせる。 ・自分の考えと友だちの考えを比べながら、話し合いを させる。 <p>◇場面や人物の様子がわかる言葉を手がかりにして、 「ぼく」の気持ちを想像することができる。</p> <p>◇文章を読んで、考えたことを発表し合い、自分の考え を広げたり深めたりすることができる。</p> <p>◇言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがある ことに気付いて文や文章を読んでいる。 (話し合いの様子・ワークシート・発表)</p>
	1	<p>○学習を振り返り、まとめの感想を 書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」へのメッセージにしてもよいことを伝える。 ◇場面や人物の様子がわかる言葉を手がかりにして、 「ぼく」の気持ちを想像することができる。 (発表・ノート)

6 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

- ・ 中心人物の心情の変化を捉え、自分の考えを明確にしながらかと交流しようとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- ・ 文章を読んで、考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
(読む能力)
- ・ 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて文や文章を読むことができる。
(言語についての知識・理解・技能)

(2) 本時の学習活動

本時の学習は、「自転車をなくす前のぼく」と「自転車をなくしたあとのぼく」の自転車やとかげ、のぶちゃんへの心情の変化について、グループ、学級全体で話し合う時間である。

個人読みでワークシートに書き込んだ意見をもとに、それは、いつ、なぜ、どのように変わっていったのかを考えながら自分の考えと友だちの考えを比べながら話し合いをし、個人の読みを深めていきたい。

(3) 本時の展開 (6 / 7)

主な学習内容と活動	指導や支援の手立て (◆は評価)
<p>1 今までの学習を振り返り、本時の学習の目当てを確認する。</p> <p>・「その日～自転車をなくす前のぼくになった」の叙述をもとに、なくす前のぼくとなくしたあとのぼくでは、何が違うのか考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車に対する気持ち ・ のぶちゃんに対する気持ち ・ とかげに対する気持ち </div> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">自転車、のぶちゃん、とかげに対してどのように気持ちが変わってきたのかを話し合おう。</p>	<p>○自転車をなくしたあと (一場面)、回想場面 (二場面) について児童の意見をまとめた掲示物で確認する。</p> <p>○「その日～自転車をなくす前のぼくになった」(P23,L6～L8)と叙述にはあるが、自転車やとかげ、のぶちゃんに対する気持ちに変化があったことを確認し、それは、いつ、なぜ、どのように変わったのかを考えさせる。</p>
<p>2 グループで話し合い活動をする。</p> <p>① 個人読みのノートをもとに、心情が表れている叙述や自分で考えた気持ちについて意見を交流する。</p> <p>② 自転車をなくす前となくしたあとでは、どんな気持ちの変化があったのか、理由も考えて話し合う。</p>	<p>○話し合いが有効なものになるように、個人読みのノートを参考に事前にグループ分けをする。</p> <p>○話し合いの手引きをもとに、自分と同じところ、似ているところ、違うところについて話したり、質問したりするよう助言する。</p> <p>○新しい発見があった場合には、話し合い活動が終わったあとに友だちの意見としてノートに書き足すよう促す。</p>

<p>3 各グループで話し合われたことをもとに学級全体で話し合いを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループで中心になった話題について発表する。 <p>4 今回の授業を振り返っての感想を書く。</p>	<p>○グループをまわり、話し合いがスムーズに進んでいないグループには、助言をしていく。</p> <p>◆文章を読んで、考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 (読む)</p> <p>○机間巡視で各グループの話し合いの内容を把握した結果をもとに、話し合いが活発になるよう意図的に計画的に指名していく。</p> <p>○話し合い活動をして気付いたこと、よかったことなどについて書くように伝える。</p>
---	--